



だより



R8.7.14 Vol.15

時代

本校では毎週、全校児童の様子を共有し、指導に生かすための時間を設けています。その中で、「もうそういう時代なんですか…。躰として当然だと思っているのに、指導している自分が時代錯誤しているのか？と感ずることがある。」そんな声がありました。確かに時代と共に社会も価値観も変化していきます。しかし、人が人として生きていくために大切なことはそう簡単には変わらないと私は考えています。私自身、若い頃は、親世代に反発し「そんな時代じゃない！」と思ったこともありましたが、しかし、親の年齢に近づき、親としての役目を終えようとしている今、亡き父母の言葉が胸に染みることがあります。時代が変わるからこそ、変わらないものの価値を見続け、大切にしていきたいと思ひます。

校長先生！お願いがあります

そう言つて5年生の女の子がやってきました。1か月前くらいでしょうか。「可愛いみんなのお願いなら何でも聞くよ！」（胡散くさ〜笑）「今度、凌先生の誕生日なので、ウクレレ持ッて一緒にハッピーバースデー歌ってください！」担任冥利に尽きますね。子供との良好な関係も伝わってきます。

話した後、ふと歴代校長の写真を見上げました。私も若い頃、ここに勤めていたので、自分が凌先生と同じ年齢の時の校長先生は？と見ると…。げっ…毎日、校長室に呼ばれ、直立不動でお説教くらッてた校長先生でした…いい時代ですよ…今…。後輩のミスまでまとめて私が怒られていた理不尽な思い出も甦りました…。無理やり、思い出補正してますが。

凌先生！感謝しろよ！子供に…ついでに俺にも(笑)

四方山話松蔭 ver. 其の十五(ならぬものはならぬ…ほんとに？)

「ならぬものはならぬ」という話をしましたが、子育て真ッ盛りの教え子と話す機会があり…。教え子のご主人は「それはダメ！」という言い方が多いらしく、一方で教え子であるお母さんは「そうじゃなくてこうしてみたら？こう言ったら？」と言葉がけをしていきたいのだそうです。さてどっちなのでしょう？「塩梅(あんばい)」だと思います。私はご主人のことは知らないのですが、教え子の話はよくわかります。全て「ダメ！」と言われると「いつも親の顔色を伺う」「自己肯定感が育たない」「将来、子供が大きくなつた時にそれまでのストレスが親子のトラブルの元になる」そんなことを思ひます。次善の策であつたり、よりよい解決法や相手への伝え方だつたりを親が教えてやることで、「自発的に考える」「自分で解決しようとする」そんな子供に育ってくれる気がします。ただ例えば「自他の命や人権に関すること」「緊急時」これはダメなものはダメ！という指導、躰でいいと思ひます。「親としてそれは許さない」ということは押し付けていいと私は思ひます。もちろんその内容によっては、理由を説明してやればいいですし、叱つた後に子供の思ひも聞いてやってもいいでしょう。大事なものは「納得させる」ことだと思います。私は今の立場で厳しく子供に指導する場面はあまりありませんが、担任を持ったり、体育指導に関わつたりしていた頃は、厳しく叱ることは幾度となくありました。その教え子にも「小学校の時、先生に相当怒られた！忘れんけん！」と脅されました。(笑)「でも楽しかったよ！」とフォローもいただきました。(ありがとう！教え子！涙)私が大事にしていたのは「こうだから怒つた。それは違ふと思つたから怒つた。納得いかんことあつたら言つて。」と子供と話す時間をとることでした。子供の気持ちを聞いて「それは先生の考えが足りんかった。ごめん！」と謝ることもありました。(そこも覚えていてよ！笑)

おいしい梅干しを作る秘訣は、つける塩の加減なんだそうです。まさに「塩梅」ですね。親がブレなければ、それが子供の価値基準を育てていきます。いい塩梅で子供と接していきましょう。

切り取り線

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。